



令和元年 霜月

城北中だより

城北中学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 真剣に学ぶ生徒
- 健康な生徒

生徒数

1年	173名
2年	155名
3年	176名
特別支援学級	6名
全校生徒数	510名

全力の彼方(かなた)で

校長 玉崎 芳行

“バッチこーい！” “ツーアウト！ツーアウト！” グランドいっぱい、センターからの大きな声が途切れることはない。仲間を支えようとする熱い想いが、ストレートに伝わってくる。凛々しい。

“ナイスコース！シブい所に落とすなあ…” 思わず唸る。彼らのラケットコントロールとボールプレイは、観る者を魅了する。二人の笑顔は絶えない。テニスをこよなく愛しているのだろう。

“胴一っ！” 紅旗三旋が揃って揚がる。張り詰めた空気を、充ちた氣勢を帯びる潔い太刀筋が切り裂く。紫電一閃。残心が美しい。面紐を解き防具を外す。彼女たちの屈託のない笑顔は実に清しい。

すーっと静かに息を吐く。彼女の鼓動が聞こえてくるかのようだ。左手を高く掲げる。鍛錬を積んだ身体を屈める。凝縮した有らん限りの力が天を突く。右掌から2.7kgの砲丸が放たれる。美しい放物線が青空に描かれる。爽やかな笑顔で手を振り仲間の歓声に応える。自己ベスト更新。ブラボー！

「校長先生、あの○番の子、何年生ですか？」 「○年生ですよ。」 「良いプレーヤーになりそうですね。」 相手に挑むドリブル、優れたハンドリング、折れない心が他校の先生方の目に留まった。本気は必ず人の心を動かす。迷うことはない。がむしゃらに突き進もう。更なる高みへ己を導こう。

コート全面を見渡し、ひた向きにボールを運ぶ。ダブルチームと真っ向勝負。そのしなやかな強さが、頼もしい。部員をまとめ、全てを背負おうとするそのキャプテンシーに心が震えた。”大丈夫だよ。あなたが背負おうとしている内に秘めた想いは、顧問の先生もしっかり分かっているから。”

“ピーッ、ピッピーッ！” 口から心臓が飛び出そうなくらいのPK戦のプレッシャーから一気に解放されたゴールキーパーのもとに、イレブンが一斉に走り寄る。肩を叩く者、抱きつく者、跳びかかる者。言葉では表せない、心の底から湧き上がったあの感情を忘れちゃだめだぞ。

新人戦が終わった。チーム城北、みな立派だった。あの日、あの時、あの瞬間、全力の彼方で見つけたものが、共に挑んだ仲間とあなたの宝物となる。そして、それは次への始まりでもある。いざ！